スカウト浜松

やくそく

ぼくは
まじめにしっかりやります

カブ隊のさだめをまもります

さだめ

1. カブスカウトは
すなおであります
2. カブスカウトは
自分のことは自分でします
3. カブスカウトは
たがいにたすけあいます
4. カブスカウトは
幼いものをいたわります
5. カブスカウトは
進んでよいことをします

新春弥栄　昭和50年元旦

（浜松地区大会スナップ）

日本ボーイスカウト連盟静岡県連盟浜松地区委員会

新年挨拶

浜松地区協議会長
吉沢　純道

昭和50年という史上空前の長い年号の聖代の新春を迎え逞しく尊きボーイスカウトの諸君と共に謹んで賀詞を申し上げます。

昨冬は、我等の柱石として、敬愛する浜松地区協議会長・名誉市民内田六郎先生の御逝去に遇い私共は、層一層一鞭又一鞭さびしさの内より是道に精進自省する次第です。私浅学非才、今回、浜松地区協議会長の要職に推挙を受け、就任を得たるは、一代の光栄と存じます。前会長の社会的地位の余りに高きに比し、自ら省みて忸恥たるを禁じ得ません。ＢＳは、地位も名誉も財産も離れた一個の人間として、人類の平和と幸福なる人生を開拓奉仕して行かなければならぬと信じます。幸に理解ある諸氏の御指導御鞭韃により、その重責を果したいと存じます。

浜松地区は、昭和29年第１団創立以来、内田コミッショナー初め各幹部諸君、又この道に隊長を中枢として真剣なる精進努力に依り、拡大発展を来し全国に於て有数なる地区となることが出来ました。故に此の地区の名誉の為に各自、自粛自戒、先輩の芳蹟を顕彰する様努力しなければならない。「云うは易く行うは難し」実修実行で行かなければならない。昔、百丈禅師に一人の修行僧が「如何なるか奇特の事」と尋ねた時、百丈禅師が「獨坐大雄峯」と喝破した。我々スカウトは、３つの誓と12のおきてのもと、百丈禅師の獨坐大雄峯の意気と覚悟を以て、今日一日、今日一日ボーイスカウトの光の路をたどって行かなければならないと思うのである。一大転換の1975年、次の時代を背負う青少年の健全なる育成のもと、世界の平和と楽土建設開拓を祈念して止まない。たった一ツしかない此の人生、たった一ツしかないコノ私、コノ自分、時節柄、終りに臨み、ＢＳの運動に奉仕せらるる諸君の健康と精進を祈念して止まない。

思い入るこころの里の宝船
さして行くこそ　スカウトの道
さして叫ぶよ　弥栄の声

年頭にあたって

日連中央審議会議員
静岡県議会議員
市川重雄

昭和50年の新春を心よりお祝い申し上げます。

本年は卯年でありますので、スカウト運動も大いに活発なる活動をしたいものです。

人生50年（現在は70～80年でしょうか？）という言葉がありますが、昭和年代も50年を迎え、日本が近代国家として発足した明治・大正・昭和の中で最も永い時代を造りつつあります。然も本年は50年代最初の年であり、最近の日本の政治・経済・社会情勢の中でも激変の時代を思う時、極めて重要な年であります。特に最近強く感じられますことは地域エゴ、団体エゴ、個々のエゴが強く、国民の連帯感とか奉仕の心が稀薄となっており誠に残念であります。

ベーデンパウエル卿がスカウト運動を始められたのは、イギリスが学校教育偏重で社会教育がなおざりにされた時に起ったと言われますが、今こそスカウト運動の重要さを一層感じられるものであります。

浜松16団も昭和40年7月発足以来、本年で10周年となり一つの節にあり団活動も「初心にかえって」努力すべき時であります。私も16団の団委員長、育成会長、浜松地区の野営行事委員長、地区副委員長そして県連の理事、日連の中央審議会議員と重責を賜っておりますので心を新たにして頑張ってまいります。

浜松地区皆様の本年の御多幸と御活躍をお祈り致し新年の御挨拶と致します。　弥栄！

隊ルームの活用

地区副委員長
12団カブ隊長
宮沢広士

昭和50年、新しい年を迎えて新しい企画をねる。毎年そんな事を繰返している—。

今年は確実に実行出来るものを計画したいと考えている。それは、いつでも舎営の出来る小屋である。今、私の隊には6畳位の大きさの小屋があって隊ルームと名づけている、その中にはデンマザー達の奉仕で作った天井裏があって、鼓隊の器材が一切そこに納められている。又、団委員の協力で今2人用（上下段）のベットが2台ある。もう1台入れれば1組6人のスカウトがいつでも泊ることが出来る。隊長も副長もそこに一緒に宿泊していろいろな話し合いをしたいと思う。

カブ隊の舎営は年間を通じて夏休みか冬か春の休日にしかおそらく出来ない、しかも隊全員が父兄も交えて参加する行事になる。楽しいお遊び的雰囲気が大部分を占めてしまう。それも結構なことであるが、組だけの集会を手近な山小屋で1泊させたら……と云う発想である。

私達は幼い頃、いろり辺で祖母からいろいろな童話を聞かせて貰った。その味を今の子供達は全然知らない、夜話（ヤーン）は英語で紡ぐと云う意味であるが、祖母の話は全く次から次えとつむぐ絲の様に続いていった。私達は幸いなことに、そのヤーンの味を今でも楽しく思い出すことが出来る。大きないろりが切ってあって、そこに大きな鯉の形をした自在鍵がつるさがっていた、その味を出す為に昔のランプも用意が出来た。大きな自在鍵も細江1団の鴨藤さんからいただいたので夜話をするには絶好のムード造りが出来上った。

今年はこの小屋をフルに活用してデンチーフやデンマザーの活躍の場を拡げてあげよう。組だけの舎営をする事によって、どんな成果が生れて来るか楽しみにしている。その成果についていつか又報告させていただき度いと思っている。

新年をむかえて

浜松第12団委員長
中嶋圭介

明けましておめでとうございます。

福沢諭吉先生の心の戒の中で「世の中で1番尊いことは人の為に奉仕して恩をきせないこと」とあります。正にその通りではありませんか。特に奉仕して恩をきせない、これが大事だと思います。私達ボーイスカウト隊を運営するものにとって誠に意を得た言葉だと深く感じるわけです。とかく我々は、奉仕をしていながらつい愚痴をこぼしてはいないでしょうか、私自身非常に反省させられます。

今年こそは本当の意味でボーイスカウト活動に奉仕したいと年の始に当り深く感ずる次第です。

1975年年頭に臨んで

地区財政委員長
金森武夫

お目出度う。スカウト諸君、中田島海岸での初日の出は、あいにく雲のため拝めなかったが、それぞれ年頭に臨んで心に誓ったことがあると思います。どうかそのすがすがしい新年の心を今年1年想いおこして、スカウト運動に精進して下さい。

1975年の世界経済は、皆さんの育った日本経済社会に困難で厳しい状態を生じ、此の変革は日本の将来を大きく変へるかも知れません。明日の日本を担う諸君も此の厳しい現実に無関心では居れないことと思います。此の難しい時こそスカウトの父「ベーデン・ポウエル」の言葉を更めてかみしめてみましょう。「まっ黒な雲を見ても、そのうしろに明るい空のあることを忘れず考へよう、そうすればどんな暗黒にも自信を持って立ち向うことができるようになる」（ローバリング・トウ・サクセスより）

年頭雑感

静岡県連盟コミッショナー
内田嘉一

内田六郎地区協議会長と川井県連盟長を失った昭和49年、そして、政治や経済、物価等の激動の年を送って、新しく迎えた昭和50年は、しっかりと動揺しないで現実をよく見つめて、意義ある年であることを期待してやまない。

昭和50年は日本のボーイスカウト運動や静岡県連盟にとって大きく転換の年となるであろうし、また飛躍の年でなくてはならないと思う。

スカウト教育の憲法とも言われる教育規定が改正制定されるのも今年であろうし、それによってボーイスカウト階程のスカウトハンドブックや隊長ハンドブックが発行されて、新しい進歩制度が実施されるのも今年であろう。

そして現在試行中のシニアスカウトの教育体形が正式に制定されて移行されるのも此の年であろう。

カブからボーイ、そしてシニアへの一貫した教育体形と進歩制度によって、日本の国に即した真のボーイスカウト教育が展開されるという画期的な、そして期待の昭和50年である。

更に県連盟のトレーニングチームは指導者養成委員と協議を重ねながら、ボーイスカウト課程の指導者講習会の一泊二日案について詳細を検討中である。

第１回から99回までを三泊四日で、第100回から 175回までを二泊三日で従来行なわれたものであったが、内容を研究し科学的に効率的に実施しようとするもので、これによって受講者の獲得と指導者の拡充を図るもので、これによって新年度に於ける大飛躍を期待するものである。

更に、浜松地区の発展拡充のためには地区内の指導者を一人でも多くウッドバッジ研究所やウッドバッジ実修所へ送ることである。そして尚地区や県連による諸々の研修に参加して自己研鑽を行って資質のより向上を図ることである。

ともすれば技能面に重点が置かれがちなスカウティングを、精神面の訓育の重要性をしっかりと認識して、時代の要請に答える為の本来のスカウティングに精進することを改めて決意したいものである。

その為に皆でもう一度スカウティングの原点をよく見つめよう。そしてその原理をもう一度考え直して見よう。

昭和50年は地区の、県連の、そして日本のボーイスカウトの一大飛躍の年たらしめたいものである。

年頭のことば

浜松地区事務長
牧野　績

あけましておめでとうございます。

昨年は、第６回日本ジャンボリーで明け暮れ、浜松地区からは 170余名が北海道に渡り〝大自然〟をテーマに展開されたジャンボリーに参加し、それぞれに収獲を得て帰られたことは喜ばしいことである。又、今年は北欧ノルウエーで第14回世界ジャンボリーが催されることとなっており、浜松地区からの参加者も昨年暮内定したことは、地区としても大変よろこばしいニュースであります。

毎年のことながら、正月になると、よし今年こそはと意気ごみ、色々と計画をたてるのでありますが、なかなか思うようにゆかない、一年をふりかえり思うのであるが、あまりよくばると実行は不可能だ。せめて１つに的をしぼり実行したいものである。

私のすきな言葉に
人のおせわにならぬよう
人のおせわをするように
そして、むくいをえぬように、である。

私は常にこれを手本に毎日を送ることとしている。今年はスカウトとしての自覚と責任をもつことにした。

スカウト運動も今年は、おきての改正、ボーイスカウト課程の指導者養成講習会の期間短縮等転換期を迎えようとしている。是非指導者の皆様も互に自己研鑽をつまれ、この道のためにつくされることを期待します。

新春を迎えて

浜松地区副コミッショナー
柴田　薫

三指

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年の秋、用事が有って、内田県コミ宅を訪問した時の事ですが、約30分位いの会話をしました。耳新しい事や、常に気が付かずしている事の内、改めて反省する事など、お話が出来て文字通り自己研鑽が出来たものでした。

丁度その頃より不況色は一段と濃くなり、私の勤務先に於ける職務も多忙となって、地区及びブロックの会合など欠席がちとなって、皆さんに大変ご迷惑をお掛けしましたが、毎夜遅く帰宅途中などでよく、県コミとの会話の中で聞いた言葉が思い出されました。それは「パス・オン」と言う言葉です。「パス・オン」とは、ラクビーでボールを次の人に手渡す時の言葉ですが、ご承知の通り、自分より後の人に手渡さなければなりません。うまく手渡し、目的達成に努力する事は、ラクビープレイヤーだけでなく、私達指導者仲間にズバリ言える言葉だと思います。現在指導者としての私達が次の指導者に「パス・オン」する事です。

丁度その頃、私が勤務の多忙下に置かれている時であったので真剣に考えました。

「スカウテイング」は合作である。隊長・副長・団委員及び両親等スカウトを取りまく総ての人の協力によって、正しいスカウテイングが成り立つものでありますが、隊全体を引張り、軌道に乗せ、真直ぐに先頭立って走るのが始動者、即ち指導者だと思います。

しかし、いつまでも続きません。良き後継者を探し出すのも指導者です。そうして「パス・オン」する事が必要でしょう。

後継者づくりのむづかしさは、言うまでも有りませんが、会社などでよく言われる事は、後継者を探すには４人の候補者をたてて検討しろ、と言われています。４人をたてても病気・退職や、ものにならなかったりして結局は１人と言う事になる。それが２人・３人と出来れば素敵な事です。

私達の隊にも、こうして良き後継者が生まれれば力強いスカウテイングが出来るものと思っています。

１年の計は穀を、10年の計は木を、終身の計は人を、と昔の中国の偉い人が言っていますが、終身スカウテイングに励むには、原点と目的をわきまえ、信念を持って、良き後継者づくりに努力する必要があり、やらなければいけないと新年に当り心を引き締めます。

謹賀新年

名誉役員
浜松市長

平山博三

浜松地区協議会長

吉沢純道

静岡県連盟コミッショナー

内田嘉一

名誉役員
可美村長

太田　保

可美第1団副育成会長
可美村教育長

中村道男

可美第1団

SB							C	副団	〃	副育	
SS							S	委		成	
隊長	隊長	〃	〃	〃	副隊長	〃	員長	〃	〃	会長	
良知	太田	庄古	杉山	山本	古橋八田	友中	山	島	中村	歪屋	太田
三夫	文進	恵子	導子	導子	重子	文哉	洋一	賢司	道男	禎一	浅一

新春　弥栄

浜松第20団

団委員・リーダー　一同

浜松第1団

										団	副	団	育			
〃	〃	〃	〃	〃	〃	C	〃	B	S	R	団	委	成			
						S		S	S	S	委	委				
						副隊長	副隊長	隊長	隊長	隊員	員長	員長	会長			
〃	〃	〃	〃	〃												
鈴木	天野	佐藤	広木	井ノ口	増尾	柴田	川上	河原崎	増田	渡辺	一同	斎木	吉沢	飯島		
ふみ	益枝	成子	孔	智子	忠雄	文薫	雄	敏	征久	年啓	誠二	正道	政次			

浜松第14団

〃	〃	C	〃	B	S				副	団		副	育			
		S		S	S				〃	〃	委	〃	会	成		
〃	副隊長	副隊長	隊長								員長			会長		
小林	片山	外山	小笠	滝川	斎藤	団委	小出	長尾	奥沢	大塚	田島	安富				
さ	ふ	戸	原	卓	房	太	員	一	庄	静	達	良	哲	正		
博	子	子	勇	幸	郎	同	二	夫	司	一	三	光				

浜松地区　弥栄

浜松第21団

団委員長　木村清治
CS隊長　金原　武
BS隊長　玉木功一

浜松第18団

育成会長　植田　甚
団委員長　伊熊正治
団委員　一　同
SS隊長　増田辰雄
BS隊長　伊熊安雄
BS隊長　福世正志

昭和50年の新春を
お慶び申し上げます

浜松南部ブロック担当
副コミッショナー

井ノ口泰三

浜松第11団

遠鉄ボーイスカウト

頑張っています！
浜松地区弥栄

団委員長　斎藤繁雄

浜松第19団

										監	組	健		野	進	指	財	副	団	育			
											織	康		営		導							
S	〃	〃	〃	B	〃	〃	C		拡	安	〃	行	歩	者	政	委	委	成					
S				S			S		張	全		事		賛									
隊長	〃	〃	副隊長		〃	副隊長			委員	委員		委員	委員	委員	委員	員長	員長	会長					
鈴木	井田	平賀	庄司	八木	鈴木	小沢	山口	袴田	久保	山崎	塚田	藤田	渥美	鈴木	粟原	野中	鈴木	牧田					
健郎	太郎	伸弘	本春	忠夫	し子	げ登	昭洸	二	悦孝		俊清	真恒	豊策	一	敏	治	護	健					

浜松地区の弥栄を!!

浜松第6団

団委員長　近藤勝彦
CS隊長　山崎仁義
BS隊長　山田昌彦
SS隊長　中島繁光

謹賀新年

浜松第16団団委員長

新谷　豊

中央審議会議員　県連理事

浜松第16団育成会長

三笠給食㈱　カネイチ産業㈱

市川重雄

新年おめでとう
今年も頑張りましょう

マーブル学園
音学科　体育科
女芸科　学芸科

ＢＳ地区副委員長
浜松第12団ＣＳ隊長

宮沢広士

浜松第15団

育成会長　林　良太郎
団委員長　山中　将司
副〃　袴田　栄治
〃〃　川瀬愛次郎
ＣＳ隊長　山下　虎男
ＢＳ第１隊長　名倉惣一郎
ＢＳ第２〃　市川　隆
ＳＳ隊長　平野　武
ＲＳ〃　原口　芳彦

浜松第16団

ＲＳＳ隊長　新井信一
ＢＳＳ隊長　袴田洋一
〃〃〃〃〃　山口照司
〃〃副隊長　石津史郎
〃〃〃〃〃〃　加藤義勝
〃〃〃〃〃〃　石井みち章
〃〃〃〃〃〃　松山京史
〃〃〃〃〃〃　市川宏
〃〃〃〃〃〃　石津浩二
〃〃〃〃〃〃　中島光雄
〃〃〃〃〃〃　中村秀雄
〃〃〃〃〃〃　池野繁光
〃〃〃〃〃〃　平尾修作
〃〃〃〃〃〃　山本利夫
〃〃〃〃〃〃　鈴木晴夫
〃〃〃〃〃〃　杉本重豊
〃〃〃〃〃〃　新谷雄
〃〃〃〃〃〃　市川育成会長

浜松地区進歩委員長
浜松第12団団委員長

中島圭介

浜北第１団

監事　原三夫
監事　室井清
監事　坂口渡
監事　小東倉嗣
監事　外山美
監事　坂東茂
リーダー　宮木利嘉
リーダー　山川信保
リーダー　米沢三男
リーダー　伊藤吉治
リーダー　藤本芳勝
団委員長　松郎
団委員長　青久郎
団副委員長　杉本
団副委員長　小山
団育成会副会長　横田

馬渕　坂東
馬渕　平野
馬渕　山下
馬渕　布施
馬渕　奥野
要人　慶一
要人　正昭
要人　正義
要人　隆一
要人　嘉三
要人　硯田
要人　国井
要人　伊藤
要人　昭浩
要人　達己
要人　武春
要人　幸次
要人　友男
要人　清弘
要人　雄

浜松第４団

Ｓ　Ｂ　Ｃ
Ｓ　Ｓ　副　Ｓ
隊長　〃〃副隊長
長　〃〃長〃補〃長長
〃〃〃〃〃〃委委員
〃〃〃〃〃〃員長長
団副団委員
団副団育成会副会長

野口光一　渡辺芳克
古賀昭隆
鈴木葉実
千葉田聡
前田井昌
金山辰
外井仲
松野
牧井
松井
松葉
山野義
牧藤寅
後岡八
安田寅
内田魁
時世

浜松地区財政委員長
浜松第12団副団委員長
㈱トーキン工業取締役社長

金森武夫

ＴＥＬ.〈0534〉73－2396

浜北第２団

ＢＳ隊長　和田
ＣＳ隊長　大須賀
副隊長　町田
〃　松井
団委員長　尾田
〃　藤森
〃副会長　青島
育成会長

勇　友
進　英
謙　直
昭　孝
寛　兼
男　治

マルニシ株式会社

浜松市神立町３６５

ＴＥＬ.63－４１１１

浜松第12団

団委員長　中嶋圭介

団委員　一同

迎春

浜北第３団

〃〃ＢＳ隊長
〃〃〃〃〃〃〃ＣＳ隊長
〃〃〃〃〃〃副隊長
健康安全委員長
野宮行事委員
進歩委員
指導者養成委員
組織拡張委員
財政委員
副団委員長
会計
育成副会長

平松　高田
阿部　藤原
藤橋　大藤
伊藤　伊内
竹中　野不
市川　高林
阿部　鈴木
竹内　米山
中野　山下
広瀬　平松
大城

達茂　全昭　み子　弘子　史子　り子　保夫　二夫　敏夫　国夫　淑夫　郁夫　信雄　岩力　太郎　宗真　利八　ゆ

浜松第10団

躍動の春を迎えて
伸びゆく若さを!!

ボーイスカウト
日本連盟静岡県西部需品部

スポーツ品全般
体育器具
器材設計施工

旭スポーツ店

浜松・連尺　ＴＥＬ.54－４３０１

山本知事を名誉連盟長に推戴　昭和49年度ボーイスカウト ガールスカウト 静岡県西部大会終る

ボーイスカウト、ガールスカウト静岡県大会は昨年から3会場に分かれて運営されてきたが、昭和49年度の西部大会は11月10日（日）快晴のもと湖西市鷲津中学校校庭に於て、名誉連盟長に推戴する山本知事を迎えて盛大に挙行した。

9時過ぎより西部各地区の各団各隊は続々と集り、会場の鷲津中学校々庭は、スカウトや父兄一般観客などで溢れるばかりの盛況であった。

山本名誉連盟長あいさつ

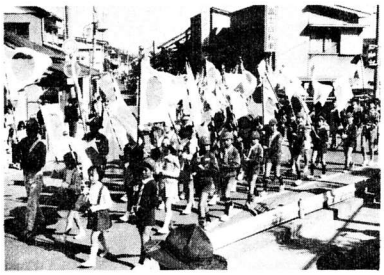
10時静岡第26団のトランペット隊の奏でるファンファーレに依って以下の次第に依って式典は開始された。

1.開会のことば　竹村・県副野営行事委員長
2.国旗携揚
3.国歌斉唱
4.物故者への黙祷
　故・川井県連盟長、故・内田浜松地区協議会長に対して生前の御活躍に感謝し御冥福を祈っての黙祷を捧ぐ。
5.尾崎県連盟長のあいさつ
　スカウトは3つのおきてを実行してほしいと要望。
6.坂本GS県支部長のあいさつ
　静かな心で相手の気持を聞いて、そして話し合い今日一日を送る気持を常に持ってもらいたいと―。
7.名誉連盟長推戴のことば
　尾崎副連盟長より、山本県知事を名誉連盟長に推戴するいきさつを説明。
8.名誉連盟長あいさつ
　山本県知事は公務多忙のなかを本大会のため、はるばる御来場になり、スカウト服を身にまとい、スカウトたちを前にして、名誉連盟長になっての抱負とスカウトに期待することを力説された。
9.来賓祝辞
　宗・県教育次長、木村・湖西市長
10.来賓の紹介
　市川県会議員他各氏
11.祝電披露
12.スカウト宣言
13.歌　そなえよつねに
14.参加×授与
15.弥栄
　大橋副コミに依って。
16.閉会のことば

以上を以って式典を終り、11時頃より市内パレードに移った。

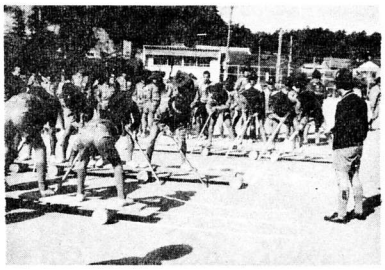
パレードは静岡26団のトランペット隊、浜松第12団、浜松第16団を始めとした各団鼓隊を所々にはさみ、その長さは延々数キロに及ぶ大パレードとなり、地元の人々に対するPRとして大いに効果があったものと思われる。

パレード終了後、昼食休けいとし13時よりラリーに移った。



市中パレード

まず静岡26団のトランペット隊のドリル行進で日本ジャンボリーで賞賛を浴びた妙技を披露してくれ、ゲームコーナーが開かれた。



BS天竜下り

カブ関係は鷲津小学校々庭に於て、次の催しものが始まった。

お宮まいり競争、玉なげ、ボクはナイト、天狗のおあそび、竹馬のり、ミニゴルフ（ホールインワン）、遠州灘のじびき網（つな引）等。どのコーナーもカブスカウトが押すな押すなの大盛況。

ガールスカウトも同じ校庭に於て、きつねのしっぽとり、フォークダンス等に楽しい一ときを過した。

ぼくらはナイト

ボーイスカウトは鷲津中学校々庭にて天竜下り、カーボウイコンテスト、木のぼり、つなわたり、プリント、とうてき、新居の関、棒引き等興味ある競技・腕くらべが展開された。

また一方、シニアスカウトは湖西連峰へハイキングを実施し、一日中好天に恵まれスカウト関係者一同に会してのコミニケーションの場として、たのしい一日を過すことが出来た。

「たんれん」

健康安全委員長　長尾静夫

たんれんは人間に必要である。心身のたんれんを受けた人と受けない者には格段の差があり、受けた者がはるかに優れていることは実例がはっきりしてくれる。

所で、たんれんにも程度があり、度のすぎたたんれんは却って有害である。適当なたんれんとは一体何か、これが又、個人個人によってちがうので困る。ボーイがキャンプで訓練を受ける時、何時も私は言う。「冒険は必要だ。しかし君達はけがをしたり、病気になる為にここへ来たのではない。けがや病気をしない様にして訓練をたのしみなさい」と。

所で、たんれんについて忘れ得ない出来事が一つある。それは一昨年の夏、朝霧野営場で浜松地区有志の団によって行われた時の体験である。8月4日富士登山は若年者は中腹を廻り、上級者が頂上まで登ると予定して居たのに、5合目のバスを降りた時、突然全員が頂上踏破希望ということになった。長い列、しかも上ったり、おりたりすることは不可能、救急班の所在を知らせるすべもない。頼るのは各人の足と気力だけ。足をすべらせれば万事休す。夕暮になる。雷雨が襲う。事故がおきたら折角のキャンプも台無しだ。しかしボーイの気力・体力が優れていたのか、幸運にもすべて何等の事故もなしに富士登山は完了された。各人にとっては良い体験であり、たんれんであったと思う。富士に登ったんだという自信もついたであろう。

しかし、今更乍らあの時の幸運と、当事者の苦労を想い出し、ギリギリのたんれんは考えものだと反省させられ、思い出す度に冷や汗が出るのである。

浜北第1団 10周年記念祭を行う

浜北第1団は浜北市で初めてのボーイスカウト団として結成されたのが昭和39年10月25日であった。

今回10周年を迎うるに当り、記念式典並びに記念行事等を実施した。

市中パレード

まず記念式典は、地区大会及び、県大会の関係もあって11月17日（日）結成にゆかりの浜北市小松の八幡神社に於て午後1時半より開始した。

式典に先だち友隊より祝福に参加してくれたスカウトたちに依って午後1時、遠鉄小松駅前より同会場に向って市中パレードを行った。

合憎、雨は降り出し、その決行は危ぶまれたが、浜松第12団、鼓隊の皆さんからの「雨でもやりましょう」との申出にこうしたことには異例とも云える雨中のパレードとなった。

新設の浜北第1団の鼓隊を先頭にボーイスカウト・ガールスカウト及び父兄を含めたパレードは、およそ 500名、なかでも浜松第12団及び浜北第1団鼓隊のカブスカウトの雨に濡れての演奏行進は「さすがボーイスカウト」と地元の人からは賞讃された。

記念式典は雨中を八幡神社の特設舞台を式場とし、来賓に吉田浜北市長、鈴木浜北市教育長、浜北ライオンズクラブの大高会長、小松事業部長、ボーイスカウト浜松地区幹部を始めとして、多数の方々をお迎えして開始された。

小杉育成会副会長の開会の辞より始まり、横田育成会長のあいさつ、杉山団委員長の10年のあゆみについての報告等のあと、功労者に対する感謝状贈呈及び表彰等が行われた。尚、その席で来賓にはスカウトよりネッカリングの贈呈が行われた。

また団委員長より10年行事として育成会及び一般に対して行なった募金を基にして、次の様な行事を行うことの説明を行なった。

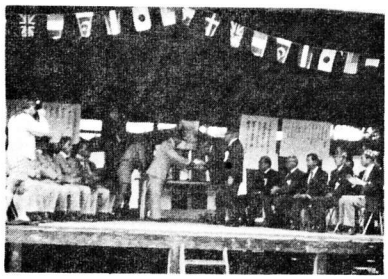
本日被露した鼓隊用楽器の購入、無線機の購入、小松金山遊園地の遊具製作奉仕、天竜厚生会慰問等を実施又は予定としている。

式典終了後、スカウトたちの宝さがし10年のあゆみの写真展、ロープ滑り、浜松第12団鼓隊の雨中模範演技が行われた。その他フォークダンスを始めとして、いろいろの遊びが予定されていたが、雨のため、その他のものは中止の止むなきに至った。

境内には、父兄たちの奉仕に依り、不用品即売会、おでん、甘酒の店も出ており大盛況であった。

今回、こうした行事をやって収獲を得たことは父兄たちが「子供たちへの奉仕」という共通した目的のために連帯感が盛り上り、共に楽しく参加してくれたことであった。

尚、当日は悪天候にも拘らず、参加してくれた友隊各位の友情と、今回の行事



記念式典

を実施するために寄せられた各位の御芳志御厚情に対して厚く御礼を申し上げ、引きつづき当団の躍進をお誓い申し上げる次第であります。　（杉山友男記）

浜松第14団結団10周年を迎えて

団委員長　奥沢達司

浜松14団結成式

松の内も明けぬ1月5日、浜松第14団結団10周年記念式典を行いましたところ正月行事等にて御多用のところ、県連、地区役員及び多数の友隊の皆様の御列席を賜わり、終始盛大裡に挙行出来ました事を、偏に皆様方の友情の賜と厚く御礼申し上げます。

扨て、当14団ボーイスカウト隊は、浜松カトリック教会フォンテノー神父様の「青少年教育にはスカウト教育が不可欠である」と言う堅い信念に動かされ、人達の努力によって昭和39年12月25日のキリスト降誕祭の記念すべき日に誕生致しました。以来

45年2月　シニアースカウト隊発隊
49年7月　カブスカウト隊発隊

と完全団を目標に歩を進めております。

この間、現県コミッショナー内田嘉一氏を始め、地区事務御当局の皆様には、その折々に一方ならぬ御指導を賜わりました事は、忘れられません。

団としましては10周年を記念として「教会敷地内の森の中にカブ隊々舎の建設を行い、スカウト活動を活発化し、団歌を設けてスカウトの一層の団結を計りたい」との提案がなされ、いずれも、育成会員、リーダー及び教会の一致した協力によって実現出来た事を喜んでおります。

育成会員による売店、カブスカウトが自分達で生産した野菜の販売、ボーイスカウトのワイドゲームの成作等、各々が自分達の力を結集し合ったと自負しております。

式典出席の為、集まって来た何年か前のスカウト達が自分の活躍した頃の思い出を語らいながら集まっているのを見ると、今では隊長よりも、副長よりも大きな立派な青年に成長しています。にこやかに彼等を見上げて当時をなつかしんでいる小柄なリーダーを見て、学校の師弟間にない親しさを感じたのは私一人ではないでしょう。

『成子の緑の中で、キャンプで又、ジャンボリーで一つテントの中で暮らし、同じ釜の飯を食べ、共に祈ったスカウト達が、このように、何時までも心の友であり、神のほりのうちにあって「ちかい」「おきて」の実践者であり、「感謝と奉仕」の気持ちを忘れないで、成長して行って欲しい』と祈らずにはおられませんでした。

県連・連盟長
川井健太郎氏 御逝去

ボーイスカウト静岡県連盟連盟長・川井健太郎氏は、11月6日、享年78才を以って御逝去せられ、11月16日午后2時より静岡市駿府会館に於て、静岡鉄道株式会社、同関連会社、株式会社テレビ静岡合同社葬に依って葬儀がとり行われた。

氏は明治29年1月1日秋田県・秋田市に生れ、大正10年東京帝大・法学部法律学科を卒業、戦前は鉄道省関係に勤務せられた後、昭和20年9月より47年5月まで静岡鉄道㈱の取締役社長、後に会長となり同社の関連会社を含め凡ゆる方面に亘り地域社会の為に貢献せられてきた。

昭和28年4月ボーイスカウト県連理事となり、以降ボーイスカウト活動には深い理解と支援を続けられ、43年6月には県連連盟長に就任せられ、以来連盟長としてボーイスカウト県連の統括に大いなる功績を残されてきたが、果らずも今回の御逝去に接し、スカウト関係者一同深く悲しみ、改めて哀悼の意を捧げる次第であります。

浜松地区指導者養成委員長
大橋俊蔵氏 急逝せらる

浜松地区指導者養成委員長であり、また浜松第7団団委員長・大橋俊蔵氏は、昨年末12月17日、病のため聖隷病院に入院加療中のところ、療養の甲斐なく1月2日心脳炎にて急逝されました。享年71才でありました。

氏は浜松市都田町に生れ、早稲田実業土木科を出身、静岡県土木科、横浜復興局等に勤務、その後満州にて活躍せられたが終戦後、浜松市の失対事業課に勤められました。昭和28年独立し中部配管工業所を経営され現在までは㈱大橋建設の顧問をされておられました。

ボーイスカウトには昭和38年より関係され、現在は浜松第7団の団委員長とし且つ浜松地区指導者養成委員長として活躍せられ、その奉仕の姿は地区スカウト関係者の敬愛を受けており、このたびの訃報は誠に惜しみて余りある次第であります。

同氏の葬儀は1月5日浜松市斉場会館に於て、浜松第7団の団葬と合せて盛大に挙行され、スカウト関係者も多数参列し「永遠のスカウト」を以ってお別れ致しました。

以下スカウト代表の弔辞を以って氏のありし日の姿を偲びたいと思います。

弔　辞

三指

寒い夜のキャンプも、汗したたる真夏のハイキング。何時も私達スカウトと共に野に山に歩み、静かに暖い眼差しで見守ってくれた団委員長。思い出すキャンプの数々、浜松地区指導者養成委員長として多くのリーダー講習会など私達の知らない多忙な奉仕をなさりながら、我浜松第7団スカウトのあるところ必ず団委員長が居ました。今振返って見ると、私達スカウトが安心してキャンプに、ハイキングに夢中になれたのも、リーダーのうしろに常に団委員長の姿のある心強さがあったからだと思います。又、団委員長は私達スカウトの訓練や集会中は絶対に大好きな煙草を口にすることはありませんでした。奉仕活動にも、何時も馴れない私達の先に立ち、にこにこと白髭の口をほころばせ、色々と教へてくれました。つい先日のクリスマスにはジングルベルのなか、サンタクロースとなってプレゼントを下された元気な姿があったのに……。

あ、、今は亡き人となられた団委員長、キャンドルの灯火のもと、私達に「君達一人一人が小さな自分の責任を果すことが社会奉仕につながり、又、これがボーイスカウトの奉仕の精神である」。と云はれた。これが私達スカウトに云はれた団委団長の最後の教へなのです。私達スカウトはここに一人一人が小さな責任を果して行くことを神前と、三指に誓って「永遠のスカウト」大橋団委員長に捧げる弔辞と致します。

昭和50年1月5日

日本ボーイスカウト連盟

浜松第7団　スカウト代表

班長　青木　晋

私の父

浜松地区委員長

内田時世

昭和49年9月30日午前2時40分83才の天寿を全うした私の父。今回の発病は9月26日午后1時頃で、発病と同時に意識は全くなく4昼夜の闘病も空しく永眠する。父の年令より若々しい、きれいな涅槃の顔が今も私の心の中に残っている。

浜松地区発足来、協議会長として私共にボーイスカウト運動の卒先者として行動と実践の勇気を与えてくれた父は今は此の世にいない。然し私の心の中にいつまでも、青少年指導の先達となって生きている。スカウトは死してのちもスカウトだとの言葉通り私共の心の中に生きている。

木全地区委員長死去の後、浜松地区協議会長と地区委員長の兼任を不肖私が地区委員長を引きつぎ、更に父が浜松市社会教育委員長勇退のあとに、私を社教委員としてその責任を父が引きつがせたことに今更、責任の重大さと心細さを感ずる。何才になっても子は子であり、父は父である。

私の父はこわい人であった。こわいという意味は唯ガミガミしかったり、権力的にいばったりすることのこわさではなく、するどい温厚な洞察力によるこわさとでも言うのでしょうか、父はそういう人であった。父がこわい人という人は、ほんとうに父を知っている人だと思う。

昭和20年「戦火災災」の後浜松と共に浜松の松のたくましい生命力の如く父の第2の人生が始り、昭和42年春発病の後の人生第3課を通じて父自身がいままでの長い人生に対する感謝の気持が、父自身を一人前にしてくれた浜松を愛する気持が、青少年育成につながり、文化奉仕につながって来たとおもう。父は純粋に浜松を愛し、日本を愛し、青少年育成に文化保存育成に情熱をもやしていた。父の亡き跡、暗夜に光を失った心細さで私自身は全く不安であるが、幸に現在すばらしい熱意あふれる浜松地区役員、指導者のいることを父も安心して永遠のかなたより私共を見守っていただけると信じている。

10月30日午前2時40分臨終の席には平山博三浜松市長、内田嘉一県コミ、関係要職の方々に見守られて83才の生涯を閉じた私の父。来年は結成20周年を迎える浜松第4団の発団えの指示を与えていただき、地区協議会長として私共の先頭を歩かれ、文字通り奉仕と感謝に一生をささげた私の父。父がたしなんだ自由律俳句の中に「お彼岸秋の雲死ぬ時は父のように死にたし」と遺してありますが、私にはとうてい不可能な事でしょうが、可能ならば父のように死にたいと願っている。今日も三組町の父の家におまいりに行くと「おお、来たか」と笑って話しかけてくれる父が、そこにいるように思えてならない。とうてい父に及ばない不肖の子であるが、私は私なりに父に負けないように奉仕の生活を続けていきたい。

旧い言葉ですが、后に続く者を信じて。

弥栄

第6回 日本ジャンボリーに参加して

浜北第3団少年隊班長
沢木和雄

この日本ジャンボリーに参加するにあたっていろいろと問題があった。今年の夏休みは高校進学にとって大変大事なときだからです。しかし結果的には、参加し多くのことを学んで帰ってきました。

千歳原でキャンプをしたわけですが、キャンプをすると、学校や家で学べない。もっと、ほかのものを学ぶことができます。

ぼくはジャンボリーに参加して最初に思ったことは、友情というものは大切である。ということです。
ふだん町の中を歩いていても、めったにあいさつをすることはありません。しかしスカウトはみんな兄弟です。だから、いつ、知らないスカウトと、どこで出会ってもあいさつをします。だから、まわりにいる人たち全部が仲のいい友だちなので自然に顔がほぐれ、笑顔がうかびます。とてもすばらしいことではないでしょうか。

苦労したことは、外国のスカウトとの会話です。なにせ日本語も知らないのに外国の言葉なんて話せるわけがありません。それでも方言や手ぶり見ぶりでなんとか話しができました。そこにも友情が表われていると思います。

ジャンボリー会場では、6日間にわたりパイオニア賞を目ざして皆んなで競い合っています。ぼくたち31隊では皆んなこのパイオニア賞をとることができたようです。このパイオニア賞をとるには、多くのゲームに参加して、規定の数に達すればいいのです。これも班ごとで行なったため、皆んなのチームワークが大切です。

この六日間のジャンボリーでさまざまなことを学びました。このさまざまに学んだものを、わが浜北三団のスカウト達にも伝えたいと思っています。

そして、このジャンボリーで強く感じた友情を大切にしたいと思います。

スカウトだけの友情ではなく、世界中の人たちの友情に結びつけていきたいとぼくは大きなゆめを持ちました。

浜北第3団少年隊班長
井口慎吾

ぼくは、ボーイスカウトにはいって、もう4年たつが、2年生までは、大きな行事に参加することもなく、ただなんとなく行なっているという感じだった。

それが今年になって日本ジャンボリー参加ということになって急に活発に活動を開始した。いろいろ、あわただしい日がすぎて出発のときには1級もとることができた。

出発の汽車のなかは長旅にもかかわらず楽しかった。

北海道についてすぐに設営にとりかかった。ぼくたちの隊は草むらの中で草をかるのに苦労したが、いままでに経験したことのないせはくのテント生活を思うと草をかる手にも力がはいった。
せつえいが終った次の日、31日は、かんさつ旅行。とてもたのしい一日だった。

そして、この旅行では北海道の雄大さにとてもおどろいた。

食べ物も大自然の中で一段とおいしく思えた。いよいよ1日からはジャンボリーがはじまった。開会式では隊旗をもったが、隊旗集団の中から見おろした中央に赤々ともえる火が印しょう的だった。
次の日は友情ゲームをおこなった。ぼくたちのチームは、あくせん苦とうのすえ1時間半というきろくでゴールインした。きろく的には遅かったが、それによって全国いろいろな地方の人と友達になれたし、おまけに韓国の人とも友達になれた。すばらしいゲームだった。

ジャンボリーはどんどんとすぎていき、その中にはレイクサイドハイク、サイクリング、ジャングルトレイルのように自然とせっしたものが多くあり、たいへんきびしい中でもたのしかった。

最終日、雨がふって撤営もなかなかはかどらず閉会式に参加できなかったのが残念だった。しかし、最終目的のパイオニア賞もとれたし、このジャンボリーはぼくにとって最高だった。北海道の大自然にも、じかに触れることができた。しかし、できることならもっともっと大自然にせっしたいと思った。

浜北第3団
紅瀬悟

ぼくたちは、夏休みを利用して北海道で行なわれた日本ジャンボリーに参加しました。

8月5日のジャンボリー大集会の時のことでした。「皇太子様が今、御休憩所をお立ちになられました」という放送が終り間もなく打ち上げ花火が打ち上げられ、パトロールカーに守られるようにしてマイクロバスがやってきました。そして皇太子さまは、アリーナの中へ入ってこられ祝辞を述べられた後、ぼくたちの居る後の方の観覧席に移られました。それから各国の入場が行なわれました。

その後には各県の代表者の入場行進が始まりました。南は沖縄からの行進でした。そして北の県へと移っていきました。その中には「ようこそ皇太子様」などと書かれた幕を横にかかえての行進の県もありました。ぼくたちの県の番などとなると、いっせいに拍手を送りました。その後、北の県へと進みました。

空を見上げると入道雲がもくもくと上がっているので、これはおそらく雨になるに違いないと思った。ぼくたちの後方にはテレビカメラがあった。ぼくの知らない放送局のテレビカメラである。それもそのはずだ、ここは北海道なのだからと思い、又あたりを見渡すと、遠くの空にジエット機が飛んでいた。ゆっくり旋回している。このあたりに飛行場があるためだろうか。そんなことをしているうちに、とうとう地元北海道の入場行進が終った。

そして各県連の演技を始めました。ぼくたちの県にいたのでは見られないものばかりでした。中には、あの有名な北海太鼓などが出演しました。ねぶた祭りなども見ることができました。ぼくが北海道に行って、こんなにたくさん演技を見るとは思いませんでした。その後、各隊の旗や日の丸の旗、大会旗などがいっせいにパレードをやりました。こんなにたくさんの旗が集まるものかな、などと思いながら見ていると、こんどは県連の旗が入場しました。そして、そのパレードが終わると今度は、「ユポイカイカイ」や「第6回日本ジャンボリーの歌」などの歌も歌いました。そのほかにも「友だち作ろう」や「森の熊さん」なども歌いました。こうして約2時間にわたって、ぼくたちはジャンボリー大集会の行事を見学できました。

浜北第3団少年隊
松下健二

待望の日本ジャンボリーは8月1日から6日間、北海道の千歳原でおこなわれた。会場は、ただっ広くて道に迷うほどだった。全国各地から集まった2万7千人のスカウトで開会式、大営火などの全体集会はとても盛大であった。特にジャンボリー大集会や名残の営火は、皇太子殿下もおこしになって、とても盛大におこなわれた。

毎日、大勢のスカウトに会って学ぶこ

とも多かった。わが31隊は、用地の4分の3が林で、残りの4分の1が荒地だった。ぼくたちのサイトは、テントだけ小高い土手の上にはった。だから、テントの中に水の入る心配はなかった。食堂のあたりは水はけも、地盤もまあまあだった。ジャンボリー大通りへ出る道も、すぐ裏にあった。おまけに、まき置場にも近かった。しかし、その反面、短所もすくなくなかった。隊本部に遠かったし、サイトはウルシの木で囲まれていた。だから、班の中にはカブレた人も何人かいた。ぼくも、その中の一人で顔がカブレてしまった。しかし、県連の薬のおかげで2、3日ですっかり、なおることができた。

ジャンボリーの目的は、パイオニア賞を取ることにあるのだが、ぼくはこれを無事にとることができた。10日間の外出のうち6日間ジャンボリーであった。

この日本ジャンボリーに参加できたことによって、中学時代最後の夏休みを有意義にすごすことができた。

南基地体験入隊

浜北3団少年隊班長
平　野　信　也

8月22日その日は浜北3団BS・GS合同での浜松南基地体験入隊であった。朝8時集合だった。ボーイスカウトも多数出席した。

いよいよ出発し、貸切バスで南基地まで乗って行った。到着して、すぐさま映画を見た。その後、自衛隊員によるロープを扱っての実習をやったり、ロープワークをやった。始めに、もやい結びをやった。自衛隊員の人が「できなければ昼食はぬきだぞ」と言った。ボーイスカウトは全員出来た。次には手錠結びを行った。しかし出来なかった。それから、自衛隊員の部屋を見学しに行った。案内をしてくれた人が、詳しく日頃の事などいろいろ説明してくれた。

午前のスケジュールが終了すると、いよいよ昼食でした。自衛隊員の人たちと気軽に話し、楽しく食事した。1時まで自由と言われた。売店に行って漫画を読んでいる内に1時のラッパの音が鳴りひびいた。

午後は、おもに基地内の見学だった。日本に一機しかないゼロ戦などの戦争などに使われたりした戦機などの見学をした。飛行機などの内部の機械の構造も見学した。それが終ると、号令によって行動するのをボーイスカウトによって行なわれた。それが終ると、いよいよ楽しみの水泳でした。でも、ぼくにとっては全然楽しくなかった。それもそのはず、水泳の道具を持っていなかったからだ。太陽の熱い光がジリジリと照す。プールに入りたい気持ちで頭がイッパイだった。もう一人忘れた子と漫画を読んで、その時間が終った。次は資料館などに行って、昔の人が作った物が展示されていた。その物を見ていると昔の人たちの行動が目に見えるようだった。それが終り、バスに乗ってナイキという対空誘導弾を見に行った。説明した人が「子どものような低年齢に説明するのは始めてだと」言った。ナイキは、速度マッハ3以上飛ぶそうだ。その見学を最後に南基地から鹿玉連絡所へと向って帰った。

2度目のキャンプ

浜北3団少年隊
井　口　拓　治

8月28、29、30日と2泊3日のキャンプを大平小学校の校庭を借りて行いました。ぼくが、浜北3団少年隊に入って2度目のキャンプでした。1回目、1泊2日の短いキャンプでした。今度のキャンプは14人参加しました。浜北3団の少年隊のキャンプでは人数が多かったと思います。

ぼくの班のトラ班では、日本ジャンボリーの経験者が1人きました。いささか安心しました。目的地につくと、テント設営と夕ご飯の準備にかかりました。テントにあるはずのペグが1本もなく、隊長や班員がさがして10本余り集まりました。そのペグで設営し終ると、ご飯の準備にとりかかりました。こげたご飯とボンカレーのカレーライス、やはりインスタントでも、みんなと食べる食事は1番うまい。つい話も進む1日目の楽しい夜でした。

「おい起床だ、起きろ！」上級生の声が飛ぶ。「え！もう起床、アアーねむいな」。

今日は夜キャンプファイヤーがある。その前の水泳は、つぶれてしまったので、ソフトボールをやった。楽しかった。あとは、夕食をつくった。ぼくたちの班は、当番班だったので、来客の分もつくった。とてもおいしかった。来客の人たちも、おいしいといって食べてくれた。他の班の残りをもらった。あずきの、かげもかたちもなかった。味も、ぼくたちの班の方がうまかった。みんなよろこんで食べた。

いよいよキャンプファイヤーだ。上級生が点火を工夫してつくったので成果が見られる。「点火」声がひびくとともに赤い火の玉がバスケットゴールから現われ点火された、かっこよかった。その中で、しらけた感じだったボーイスカウトをよくリードしてくれたのが、特別参加のガールスカウトだった。ボーイスカウトは他のことをしゃべっていたり、はずかしがったりして、やろうとしなかった。やらなければいけないと思ったけど、他の人のやる気配がなかったので、やめてしまった。ボーイスカウトの中で、最初にやったのがフクロウ班だった。それにつられるようにリス班もやった。しかし、ぼくたちの班では、まだ何をやるか迷っている。結局、でんでん虫の歌を歌った。その日はぐっすりねむれた。

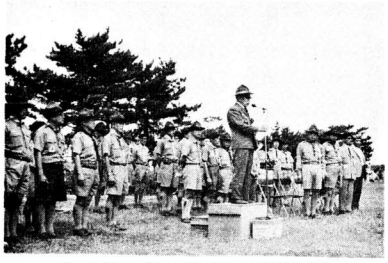
最後の日の朝がきた。最後の日となると身も心もひきしまる。追せきハイクでは、ガケの下が川のとても危い所を通った。他の人がやった印があり、どこかへいってしまった。モールス信号も解読できず、最後だった。ちゃんと、やってきたら進級を楽にしてやるといっていたのに残念だった。そのあと何ごともなく、すべてが終った。テントもてつ営しバスにのって帰った。

このキャンプで経験したことは、何よりも協力性ということだった。キャンプファイヤーの時も、もっとみんな協力しさえすれば、もっと楽しいキャンプファイヤーになっていたのに。それを比べるとガールスカウトは、来た人みんな協力して自分から進んでキャンプファイヤーを楽しくしようと努めていた。ほんとうにりっぱだった。それにひきかえボーイスカウトは、動さに機びんさがなく、いつでもくだらないことをしゃべっていたりした。キャン

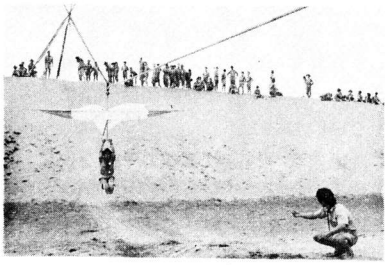
キャンプファイヤーの時は、同じ班の上級生の一人が、くだらないことをしゃべっていて、団委員長におこられた。ほんとうにみぐるしい行動だった。これからは、ぼくも、もう少しスカウトらしい行動をとろうと思った。今度のキャンプで悪かった点を反省して、次のキャンプで直したいと思う。

浜松地区大会スナップ集

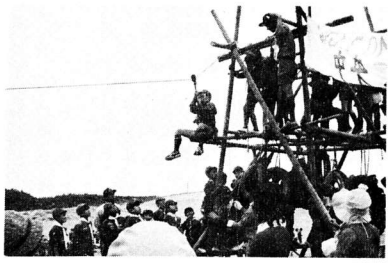
（撮映・山中将司）



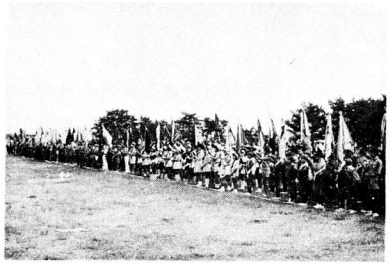
あいさつされる吉沢協議会長



人間ダコ



冒険第一歩



勢ぞろいする地区スカウト

洋弓の腕くらべ

砂芸術に鼻高いカブぐん

新年の思い「人間関係」

浜北第3団委員長
山下總太郎

あけましておめでとうございます。私たちは、今新しい年、昭和50年を迎えるため、新年遥拝式の会場である。六所神社（浜北市宮口）の境内にスカウト、リーダー、父兄等約50名と共に立っている。

昨年は、寅年で古老曰く、寅年は荒れるといわれたが、あの7.7 集中豪雨により、当団においても被害者10数軒に及んだのも記憶に新たであります。その猛虎の甲寅も、地元にある庚申寺の鐘声と共に去りました。

乙卯元旦一家揃って鶏狗の声を聴きつつ、この六所神社に初詣りして拍車を打ち、種々の祈願をこめて、どうか本年も無事息災と祝福した次第です。

それは、不況突破の意気込みと共に明けた昭和50年の朝でした。私は、遥拝式の跡片づけをしながら、ふと「これからの人間関係」なるものを思い浮かべました。

現代ほど親子の人間関係がなげかれる時はないだろう。ある人は、親子の断絶ともいう。なぜ、これほどまでに親子の人間関係が薄っぺらなものになったのかこのまゝ断絶が激しくなっていくものだろうか、という疑問視すらするものです。

家族の人間関係もさることながら、政治や経済においても同じことが言えるのではないだろうか。

家庭の中での人間関係も、まったく同じようなことが両親と子供たちの中で起こっている。で今の若者は、という前にわが国の政治や経済のこのような悪循環を直さないかぎり、現代の若者はそれを見て、ますます欲望を満たすだけの行動に走ることを恐れる一人でもあります。

それは、もはや相手を信頼するという関係ではなく、自分に都合の良いように利用する、他人のことはどうでも、自己さえよければ良いという考えになってしまうだろう。これを大人たちは危険だと言いながら、自からは、そのような社会の仕組みにしてきたことを忘れ、今の若者はと言う批判だけして、責任の転嫁をしているのではないでしょうか。

戦後のわが国をこれまでに築き上げた主力は、年代層でいえば50才代以上かも知れないが、戦争を知らない若者たちに何ができるか、と言う気持ちがあるのだろうか？。だが、「これからの日本を創る人」は、今の若者なのであります。

もし人間同志か信頼できない様な社会を創ったのが今の大人と言う人がいるなら、これからの若者は信頼しあえる人間関係や明るく住み良い社会に創りかえてゆくことが大切な課題とも言えますが、どちらとも決めつけることは出来ないだろう。

だが、これらが出来上った時こそ、真に誇りのある日本。日本人としての誇りが新しく生まれてくることでありましょう。

中田島砂丘 新年初日遥拝式

ボーイスカウト浜松地区恒例の元旦、日の出遥拝式を、本年も中田島海岸砂丘にて盛大に行なった。

当日の天候は生憎の曇天にて初日の出の遥拝は出来得なかったが、元気なカブスカウト、ボーイスカウト、リーダー、父兄等集う者約 900 余名、暗いうちから地区のぼりを目印に続々と参集し、しばし地区心づくしのたき火にて暖をとり、集合時間6時30分には、大たいの人員が整列を終り、6時57分初日の出時間と同時に国旗掲揚、国歌斉唱に続き、吉沢地区協議会長の「1975年お目出度う今年も元気でスカウト運動に邁進しよう」内田県コミッショナーの「スカウトの原点に返えりリーダーは大いにがんばって貰いたい」市川日連、県連役員から「元日の遥拝式も最初の頃はボーイスカウトのみであったが年々一般の方の人数も増え、本年は相当数の人員が参加している。これもボーイスカウトが先べんをつけたようなものである。今年も飛躍の年にしたい」

宮沢地区副委員長…うさぎ年にちなんで童話を例にとり、油断をしないうさぎであるように…。

三輪地区コミッショナー…今年は忍耐の年にしたい。等お話しがあり一同深い感銘を受け本年に向い決意を新に一同元気よく「弥栄三唱」を送り式を閉じ、引続き地区で準備された甘酒に一同舌づつみをうちながら各団各隊の今年の抱負を語り合った。

尚12月28日より元日まで引続き中田島にてキャンプを行なった浜松12団、21団ＪＡ２ＺＳＦハムクラブの活躍もスカウト一同に新らしい励みとなったものである。

（山中・記）

精究教理とは

○日本での実修所の開祖・佐野常羽先生は、実践躬行、精究教理、道心堅固の三つを道場の清規三事（チンギ、サンジと禅宗流に読む）とされた。

○精究教理とは、その清規三事の二番目の言葉であり、後輩達に今でも大きな影響を与えて呉れているが、その言葉の受取り方については、必ずしも一様ではないようだ。
教理を詳しく究めるのであるから、本をよく読んで、自分で勉強すればよいのだ、と解釈をしたり、B－Pの源流にさかのぼって原理を研究することだと受取っている者もいる。

○佐野常羽先生が、この清規三事を英訳して、当時のギルウエルの所長ウイルソン先生に送られたことがあるが、その時先生は

実践躬行を　Activty first　（先ず第一に実行する）
精究教理を　Eraluation follows（評価、これに続く）
道心堅固を　Eternal spirit（永遠の精神）

と訳をされている。

○こうしてみると、精究教理とは、評価、批判、ないしは反省、吟味をせよ—という意味となる。
本を読んで、しっかり勉強をせよ、ということばかりではない。

○一番のアクティブティ、ファーストはB－PのいうLearning by Doing（行うことによって学ぶ、実践することによって学ぶ）という言葉を強く言い換えたものとも受取れる。

○けれども、実践した結果を吟味、反省、批判、評価をもししなかったとしたら、進歩を期することは出来ない。
そこで「評価これに続く」これが精究教理の真意であると受取る訳である。

○ところが、相当のベテランが、いわゆる天狗になってしまうのは、この精究教理のはきちがいによるものらしい。
すなわち、俺は先輩であるという年数ばかりから精究したというぅぬぼれからである。
或る人は、一番よく本を読んだ、またよく読んでいる、といって自慢をする。どうも鼻にかかり易い。

○ところで、評価は何によってなされるのであろうか。
それは、感情からされるものでもなく、ムードによってされるものでもない。
それは〝分析〟によってされるのである。〝分析〟のない評価は評価にならないのである。

○評価のない精究教理はあり得ない。
この論法から〝分析〟のない精究教理はあり得ないという結論が出て来る。

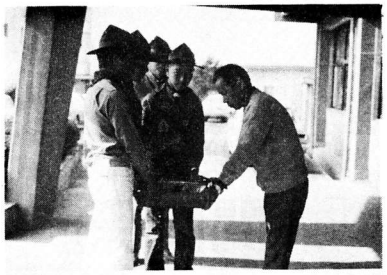
○我々は教理についても、又、自己に対しても常に分析を怠ってはいるのではあるまいか、と評価をしてみよう。

原稿募集

スカウトに関する記事なら、なんでも結構です。

年末年始のうごき

浜北第1団



天竜厚生会へのし餅を寄贈する代表

1. 年末街頭募金（BS）1万円を12月28日浜北市長に進呈し、歳末たすけあいの基金として頂くことをお願いした。残り6千円分で、のし餅3枚とお菓子若干、靴約10足を30日天竜厚生会に代表が訪れて寄贈した。
2. カブ隊クリスマスの集い12月15日・小松栄町公会堂に於て。
3. BS隊寒中キャンプ12月26、27、28日於・平口不動寺。
4. 1月1日　新年日の出遥拝式・平口不動寺裏山にて実施。スカウト及び父兄約百名参加。甘酒をサービス。
5. 1月2日　CS隊の早期スケート訓練於・浜松スポーツセンター。

うごき

11月6日　県連理事会（静岡・内田時）
9日　県大会西部会場準備、鷲津中学校一帯　竹村野営行事委員長、三輪地区コミ他8名
10日　県大会西部会場　湖西中学校及小学校、湖西連
〃　県西部指導者養成委員会、鷲津中学校校長室（BS講習会174期打合）
13日　地区内カブリーダー会　法林寺
14日　174期BS講習会スタッフ打合会兼団委員研修会スタッフ打合会　法林寺
16～17日　地区団委員研修会　平口不動尊
18日　174期スタッフ打合会　法林寺（17名受講）
22～24日　BS 174期講習会　市青少年の家（25名受講）
25日　地区リーダー舎営打合会　舞阪町民センター（浜名地区合同）
12月1日　西部ブロックソフトボール大会（優賞19団）
3日　リーダー研修会打合会　法林寺
4日　中央ブロックリーダー会　法林寺
5日　地区野営行事委員会　法林寺
7～8日　地区リーダー研修会　舞阪町民センター（24名受講）
11日　西部リーダー反省会　法林寺
18日　地区委員会（忘年会）舘山寺遠鉄ホテル別館　50余名参加
19日　県連理事会（静岡・内田時）
21日　細江1団Xマス大会　細江役場分館
22日　12CS　Xマス集会　市青少年の家

あとがき

○昭和50年を迎え、新春弥栄を寿ぎたいと思います。昨年の新春は石油ショック、物不足、狂乱物価の幕あけであったが、一年立って見ると、不況の風が身にしみる新春となってしまった。どうやら今年も多難な年になりそうだ。

○スカウト浜松の新春号は例年新春の記事も入れたりするために、元旦に配布する様な状態でなしに、一月の末の発行となり、いつも編輯子をやきもちさせること〻なる。
来年は発行のタイミングを変えることを考えなければなるまい。

○昨年は浜松地区のスカウトの父とも云うべき内田協議会長、次いで県連の川井連盟長と相次いで逝去せられ、新年早々、大橋指導者養成委員長急逝せらる。人の世の常とは云いながら残されたもの〻淋しさをひとしお感じる。

○我々は、こ〻に故人の御冥福を祈ると共に、大先輩が残された「奉仕の精神」を実践することを誓い申し上げる次第である。

（T・S生）

発行所　第58号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70－4　児童会館内
TEL　54－0178
編集発行責任者　杉山友男
昭和50年1月25日発行